



# 個人投資家向け 会社説明会

## 株式会社フジクラ (東証プライム市場:5803)



2026年2月11日



取締役社長CEO  
岡田 直樹(Naoki Okada)

## 【座右の銘】

夢なき者に理想なし、  
理想なき者に計画なし  
計画なき者に実行なし、  
実行なき者に成功無し。  
故に夢なき者に成功無し。

～吉田松陰～

1986年 藤倉電線(株) 入社

2008年 光ケーブル開発部 部長

2012年 光ケーブル製造部 部長兼務

2013年 ケーブル・機器開発センター センター長

2014年 次世代光ケーブル事業 推進室 室長  
→ **SWR®/WTC®の開発とその事業創出**

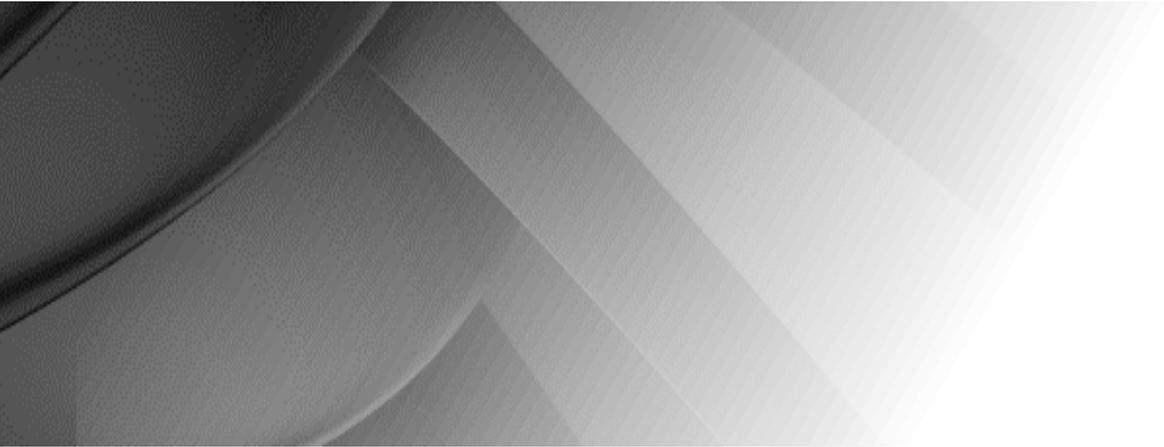
2018年 光ケーブルシステム事業部長  
→ **SWR®/WTC®プロモーション戦略をけん引、事業拡大**

2020年 常務執行役員/コーポレート企画室室長  
→ **事業構造改革「100日プラン」を策定と推進**

2021年 取締役COO 中核事業担務

2022年 取締役社長CEO  
→ 持続的成長フェーズへの転換  
**2025年中期経営計画の策定と推進**

2026年 **2028次期中期経営計画の策定**



01. フジクラグループ概要

02. 事業再生フェーズ/持続的成長フェーズ

03. 2025中期経営計画

04. 将来の成長に向けた取組み



本社

社名	株式会社フジクラ
本社所在地	東京都江東区木場1-5-1
代表者	取締役社長CEO 岡田 直樹
創業	1885年(明治18年) 2月
設立	1910年(明治43年) 3月18日
資本金	530億円 (2025年3月31日)
従業員数	51,262名(連結) (2025年3月31日)
売上高	9,794億円(連結) (2024年度)

- 1885年、藤倉善八による個人企業として創業
- アーク燈を見て、電気の時代を予見



藤倉善八



庶民が初めて見たアーク燈。その明るさに驚く



- 女性用ヘアバンド「根掛け」の技術を電線製造に活用
- 独立系である当社が強大な競合社に比し生き残る術は「技術」しかない



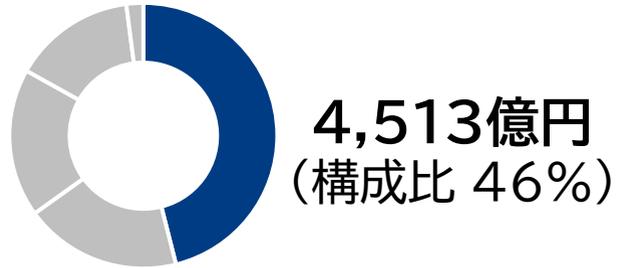
## 当社のDNAは「進取の精神」と「技術のフジクラ」

世界では今後も大きな変革が進むとともに、多様な技術革新が起こる。  
こういった社会の変化や技術の進展があるところには、  
私たちフジクラグループの優れた技術を活かせる機会が必ずある。

“つなぐ”テクノロジー™を通じ、顧客の価値創造と社会に貢献することが  
当社の「Purpose」であり存在意義。

## 2024年度 連結売上高: 9,794億円

### 情報通信事業



- 光配線ソリューション (光部品、光ケーブル等)
- 通信エンジニアリング
- 光ファイバ
- 光ファイバ融着接続機(世界トップシェア)



### エレクトロニクス事業



- FPC※
- 超小型コネクタ
- HDDアクチュエータ
- サーマルソリューション
- 圧力センサ・酸素センサ etc.

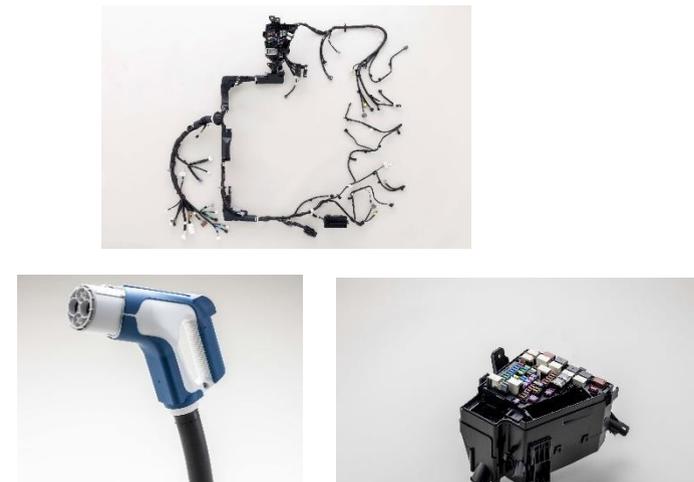


※フレキシブルプリント配線板の略

### 自動車事業



- ワイヤハーネス
- ヒューズボックス
- 急速充電ケーブルコネクタ



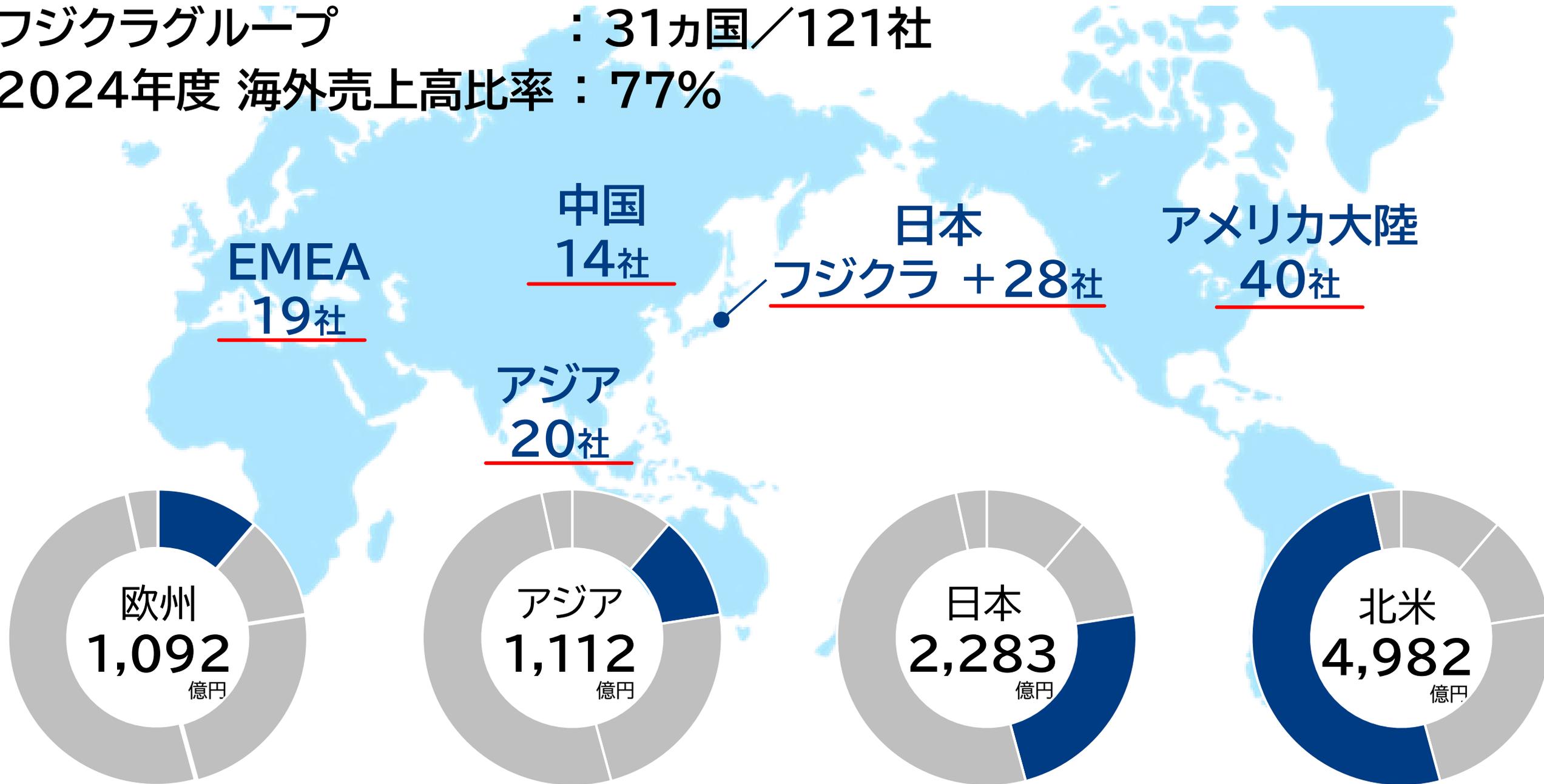
### エネルギー事業

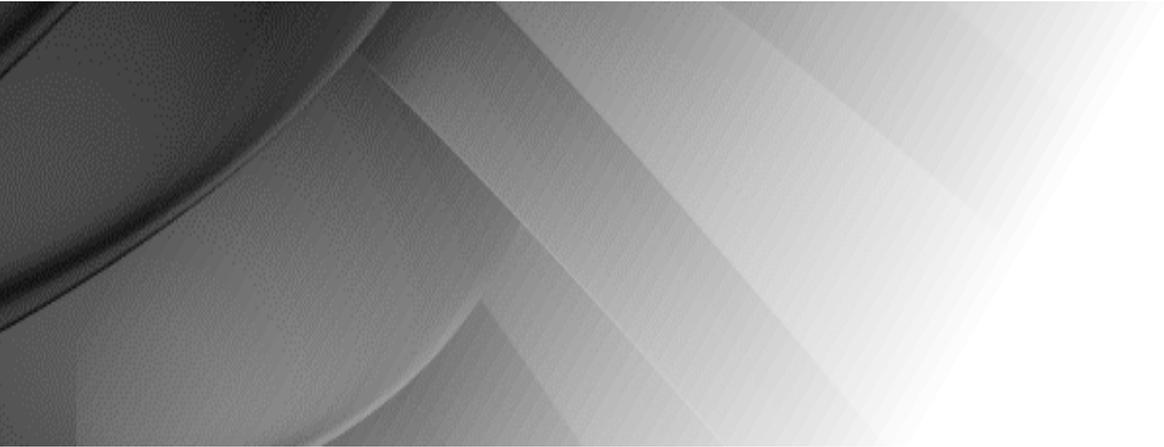


- 産業用電線
- 高圧・特高電力ケーブル
- 環境配慮型ケーブル
- 通信ケーブル
- 架空送電線



- フジクラグループ : 31カ国／121社
- 2024年度 海外売上高比率 : 77%

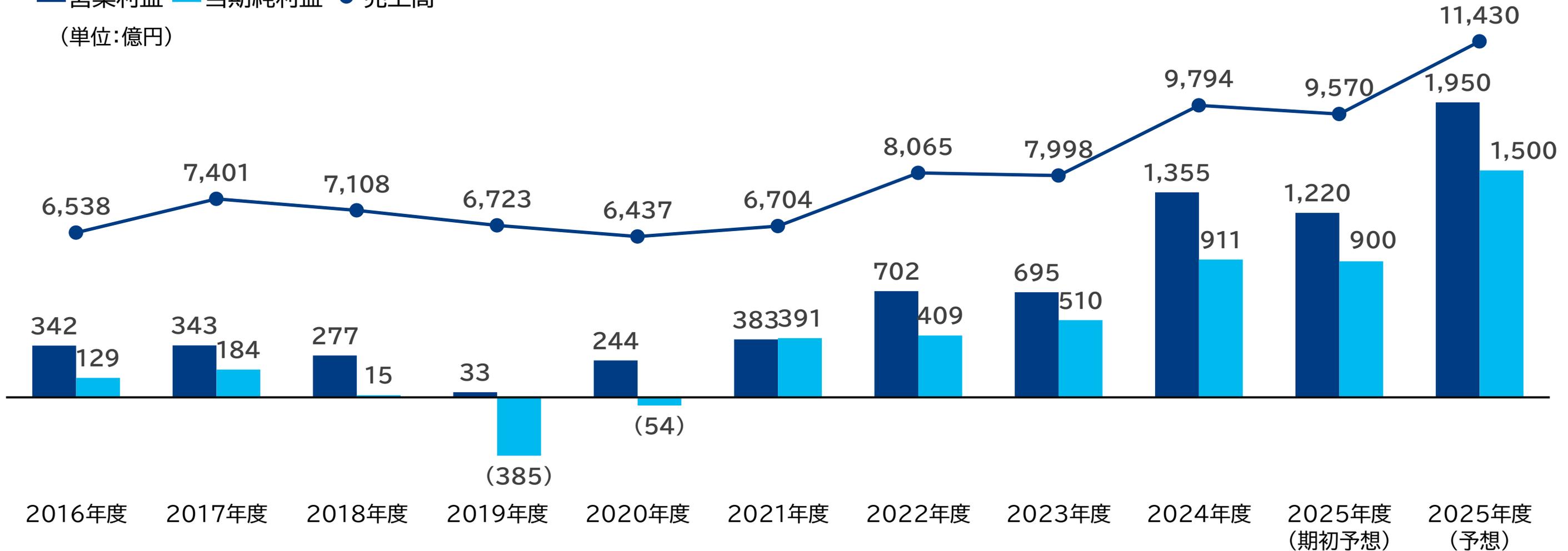


- 
- 01. フジクラグループ概要
  - 02. 事業再生フェーズ/持続的成長フェーズ**
  - 03. 2025中期経営計画
  - 04. 将来の成長に向けた取組み

- 2019年度に過去最大の当期純損失を計上。事業再生フェーズに移行し、事業構造改革「100日プラン」による事業再生と経営体制の抜本的改革を断行。



■ 営業利益 ■ 当期純利益 ● 売上高  
(単位:億円)



役員の構成	2020年6月 取締役15名+執役22名	2021年6月 取締役10名+執役11名	2023年6月 取締役10名+執役7名	2025年6月 取締役10名+執役7名 (現在の体制)
社内取締役 (業務執行)	9名	4名	3名	3名
社内取締役 (非業務執行)	1名	1名	2名	1名
社外取締役	5名	5名	5名	6名
執行役員	22名	11名	7名	7名
備考	業務執行取締役及び執行役員の数が多い、機能が細分/分散化。	カンパニー制を廃止し、事業部門制へ。組織の重層化を解消し、CEO・COOへの一時的な中央集権で迅速な構造改革を実行。	CEO・CTO・CFOを設置し、経営の機能強化、迅速化及び安定成長を推進。この三頭体制で持続的成長フェーズへの移行。	三頭体制を継続しつつ、社外取締役は監査等委員である/ないを分ける体制に移行。 <b>経営経験のある社外取締役を大幅に増員。</b>

事業再生フェーズ

持続的成長フェーズ

強化施策

**成長分野である光ケーブル  
SWR®/WTC®へは適宜投資を継続**

佐倉 SWR®新工場建設  
決定(23/5)

カタでのデータファイバ  
プロバイダ事業に参画

佐倉 光ファイバ・SWR®新  
工場建設決定(25/8)

MT/MMCケーブルの増産  
投資

DAS-Local5G  
ビジネスの拡大のため、  
米国企業を買収

超電導線材の新工場建設  
を決定(25/8)

メジコ・ポーランドの光コンポー  
ネント増産投資

自動車事業の拠点を活用  
したモロッコでの光ケーブル製造  
体制構築に着手

海外EPC事業撤退

FPC事業分社化  
(22/5)

HDDアクチュエータ増産投資

グループ内再編で第一電子工業  
を吸収合併・分割(25/5)

メーシアFFC社清算

フジクラエンジニアリング社  
事業譲渡(21/7)

送電・特殊電線事業  
分社化(22/10)

光ケーブルの英国スウィンドン  
工場閉鎖

フジクラコンポーネント社  
事業譲渡(21/5)

タイ・ナカオン第2工場閉鎖

自動車事業のエルドバン・中国  
ウー工廠での生産終了

自動車欧州事業再編

事業再生フェーズ  
(20-21年度)

持続的成長フェーズ  
(22年度～)

- 事業再生フェーズにおいては、上表の事業の選択と集中に加え、資金繰り/財務体質強化(政策保有株/遊休資産売却、劣後ローン借入)や固定費削減、投資規律の強化を実施。

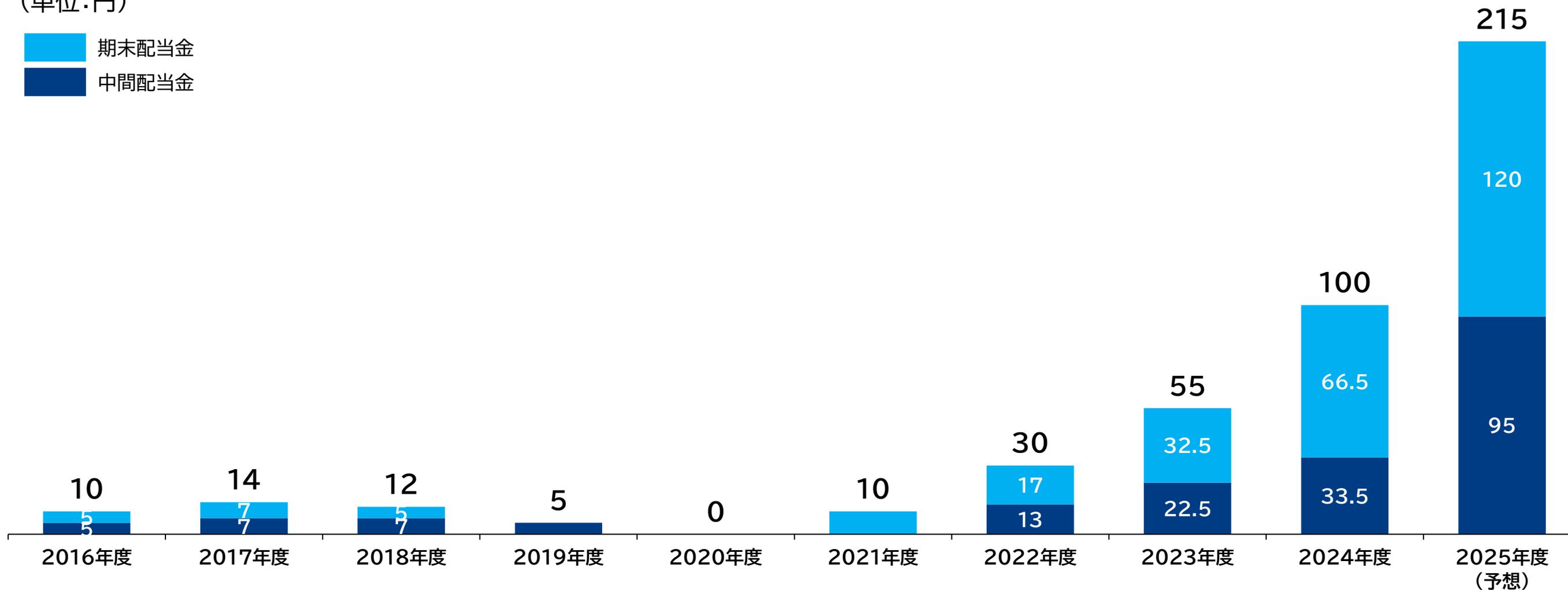
(単位:円)



- 2025年度の業績予想の上方修正(2026年2月9日公表)および配当性向40%を目安とする方針に基づき、2025年度の配当予想は一株当たり215円とする。

## 配当金の推移

(単位:円)



## 「2025年度 ポーター賞」を受賞（2025年10月）

- ✓ ハーバード大のマイケルE.ポーター名誉教授に由来し、独自性のある優れた戦略を実践している日本の企業や事業に贈られる賞で、当社情報通信事業部門が受賞
- ✓ SWR®/WTC®を中心とした光配線ソリューション製品のグローバル展開において、価格競争と一線を画す、独自の製品・製造技術に基づく高付加価値戦略が高く評価され、受賞に至った。



## 「2025年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞」受賞（2026年1月）

- ✓ 技術開発性、価格対効果性、業績寄与度、成長性、独自性、産業・社会へのインパクトの6項目において総合的に評価し選定される。当社「13824心SWR®/WTC®」が受賞。
- ✓ 従来は6912心のSWR®を実装した製品が最多心であったが、「13824心SWR®/WTC®」は外径を40mm以下に抑えたうえで、従来比の2倍の心数を実現した点が評価され受賞となった。



## 財界「経営者賞」を受賞(2025年11月)

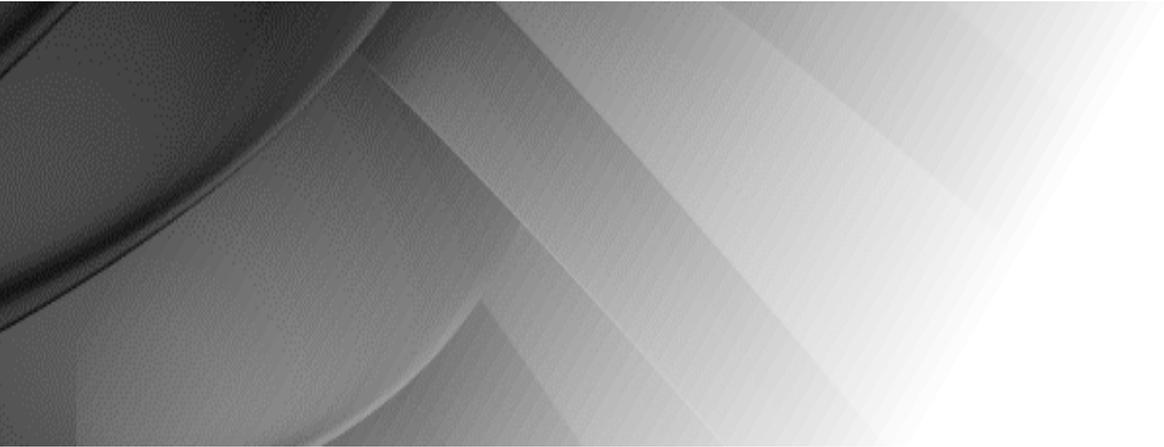
- ✓ 顕著な業績を残した経営者や人財教育などで特筆すべき取り組みをした経営者が対象で、取締役社長CEO 岡田直樹が受賞。
- ✓ 4年連続の最高益更新と、最先端技術の開発で牽引している姿を高く評価され、受賞に至った。



## 「コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー2025」で経済産業大臣賞を受賞(2026年1月)

- ✓ 政府は企業の成長戦略の一つにコーポレートガバナンスを位置付けており、本表彰は一般社団法人 日本取締役協会が2015年から実施。
- ✓ 当社は2019年の経営危機に際し、「100日プラン」で事業再生と経営体制改革を断行し、CEO・CTO・CFOの3頭体制を構築。計画的な後継者育成や戦略に基づく取締役選任、人財育成制度を整備。取締役会も社外取締役過半数で実効性向上を図り、財務パフォーマンスも大幅改善したことが評価された。



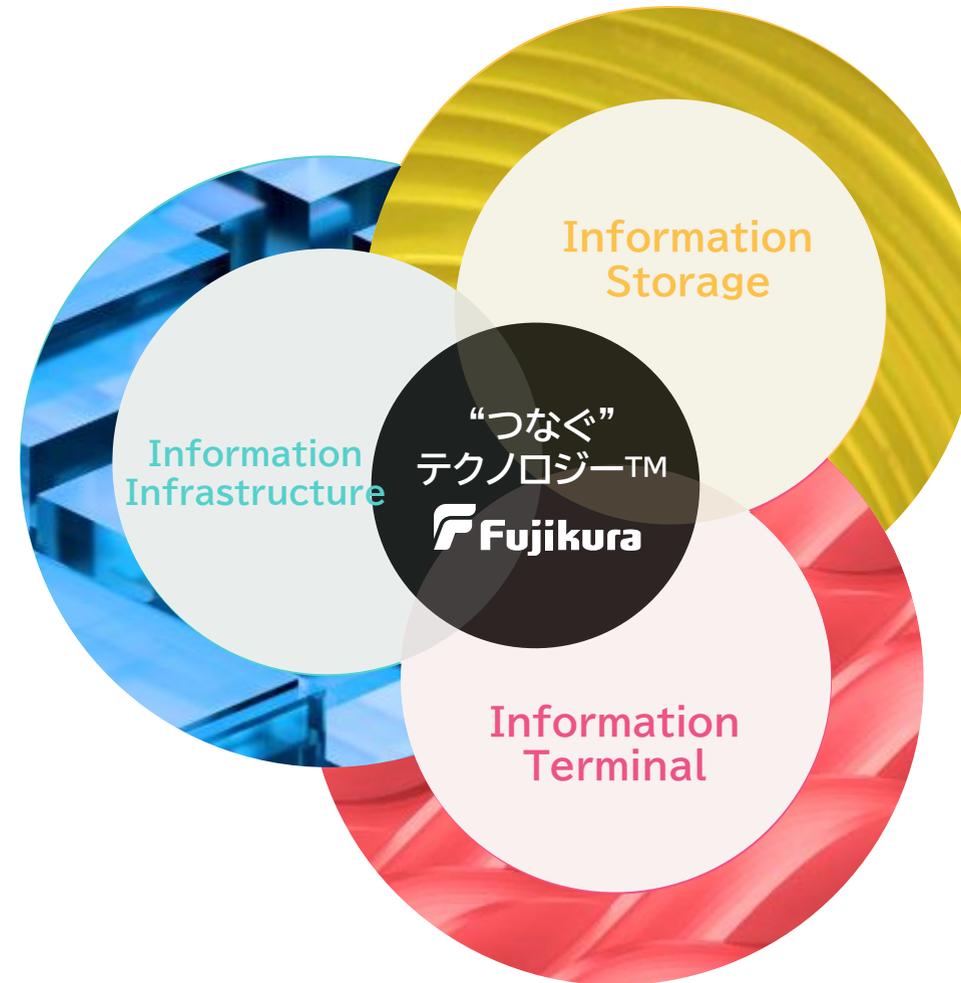
- 
- 01. フジクラグループ概要
  - 02. 事業再生フェーズ/持続的成長フェーズ
  - 03. 2025中期経営計画**
  - 04. 将来の成長に向けた取組み

## 情報インフラ

革新的な光技術をベースとした光配線ソリューションと将来の高速無線通信技術によって、高度情報化社会実現のためのインフラ基盤の構築に貢献。

関連する事業

情報通信



## 情報ストレージ

ユニークな電子部品技術や超高密度光配線技術で、膨大な情報をストレージするデータセンタの構築に貢献。

関連する事業

情報通信

エレクトロニクス

## 情報端末

高精細な電子部品や配線・実装技術で、高速大容量かつ高機能な情報端末の進化に貢献。次世代車も情報端末と捉える。

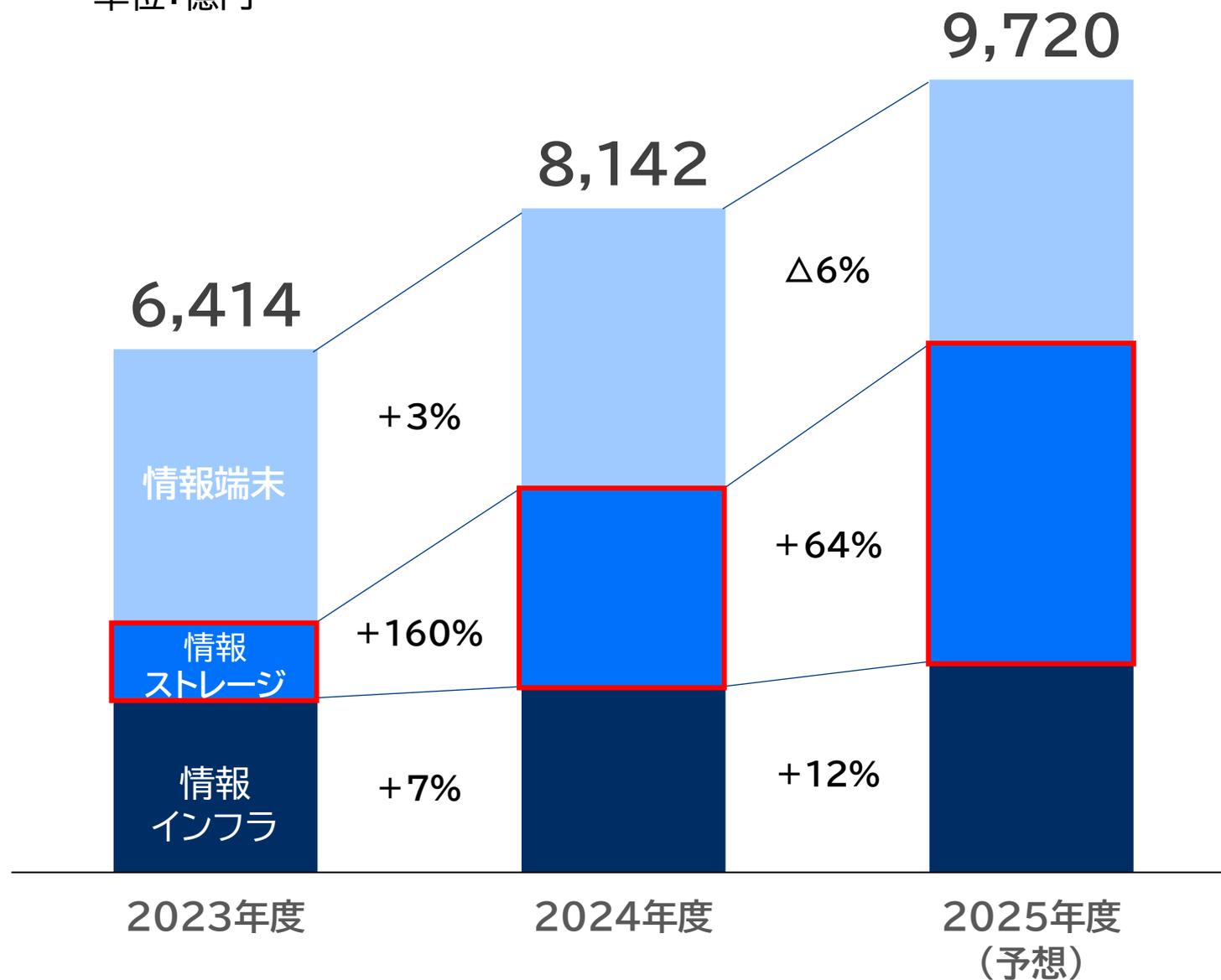
関連する事業

エレクトロニクス

自動車

情報インフラ・情報ストレージ・情報端末の“つなぐ”テクノロジー™で、「技術のフジクラ」による顧客価値創造と社会貢献を目指す。

単位:億円

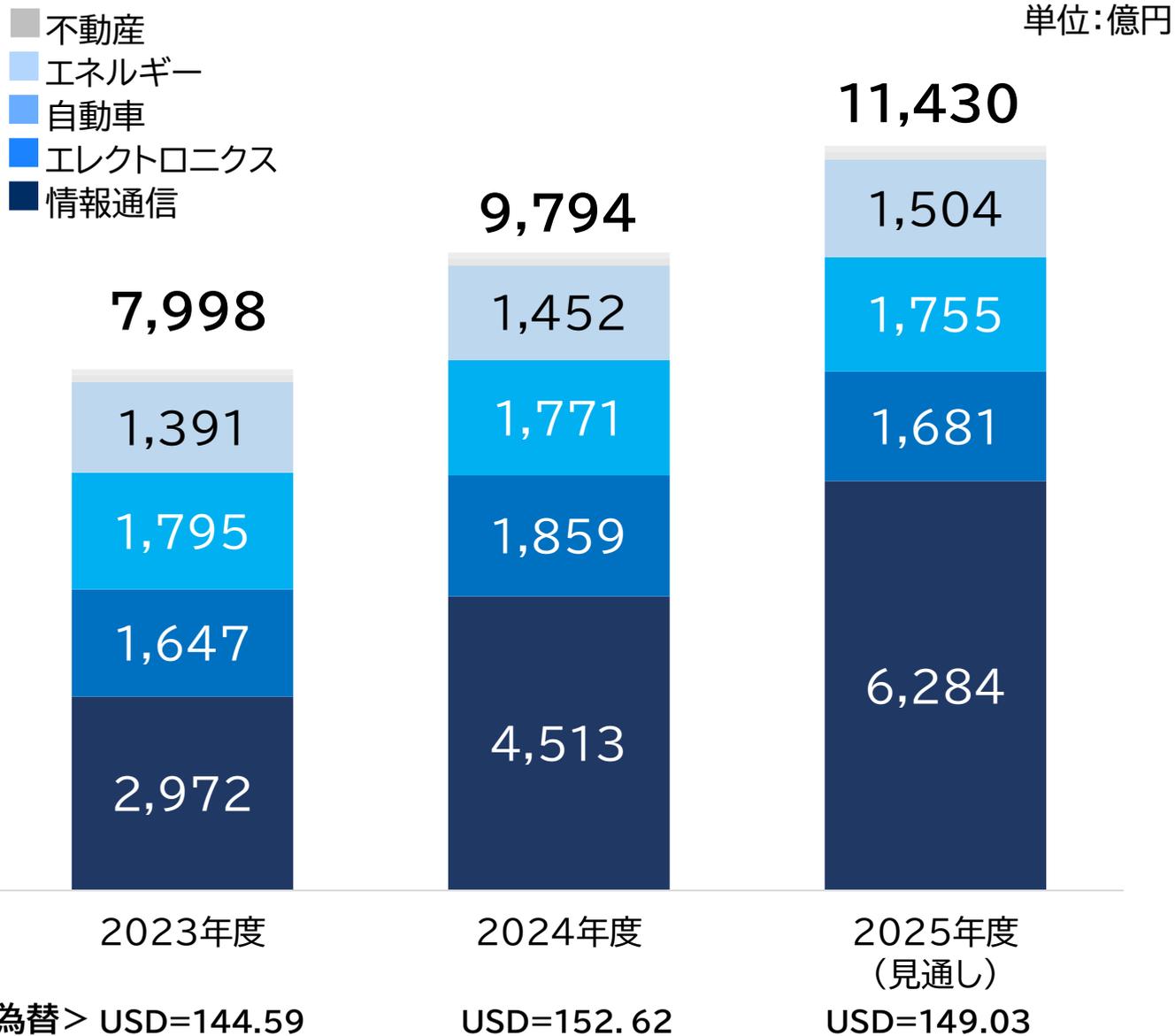


## 「情報ストレージ」や「情報インフラ」の分野が大きく伸長

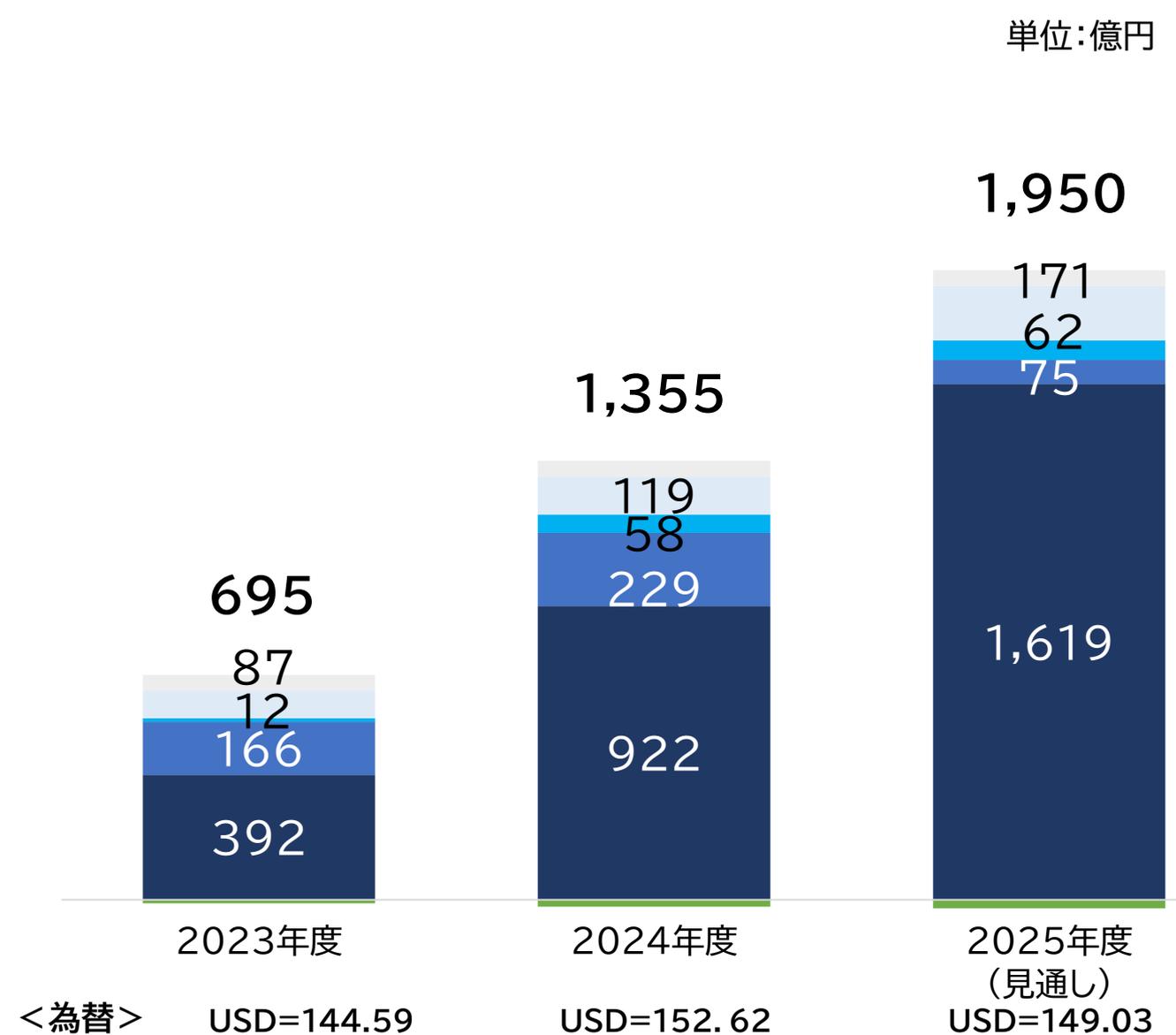
- 生成AIの普及に伴い、データセンタ市場の投資が拡大。光ファイバケーブルや光コネクタを始めとする光配線ソリューションの需要が急峻に拡大。
- 「**情報ストレージ**」の売上高は、2023度から**約4倍**に拡大。
- 「情報インフラ」では、米国やカナダにおける新規事業の寄与もあり、2023年度比 $+20\%$ の増加。
- 「情報端末」はスマホの成長飽和と競争激化、ウェアラブル等の次世代情報端末の量産化の遅れおよび自動車市場の変調により微減。

※ 情報通信事業、エレクトロニクス事業、自動車事業の売上高を核心的事業領域の3分野に分解

## 売上高推移

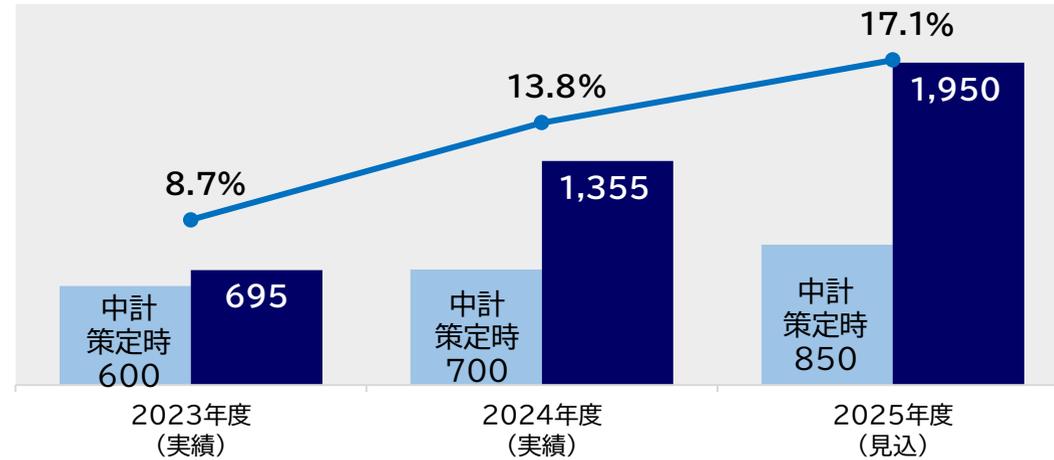


## 営業利益推移

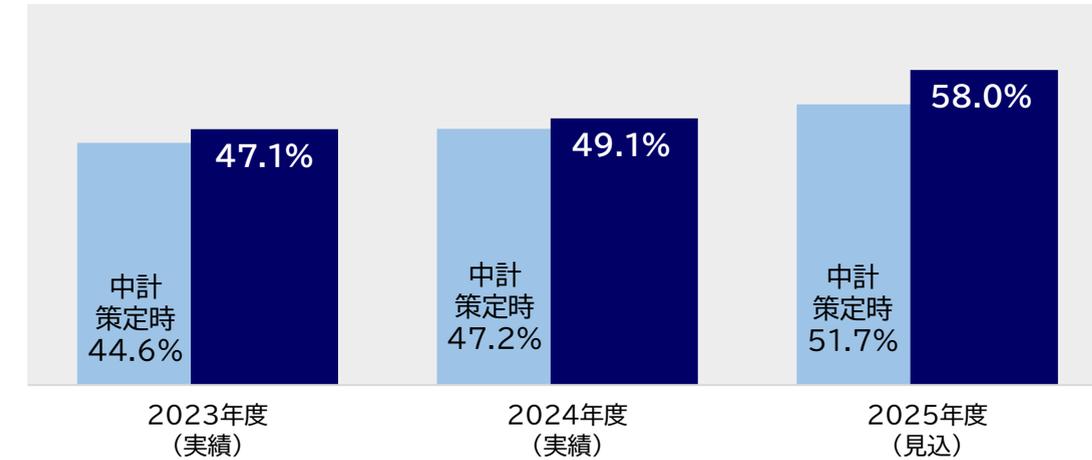


## 営業利益※／営業利益率

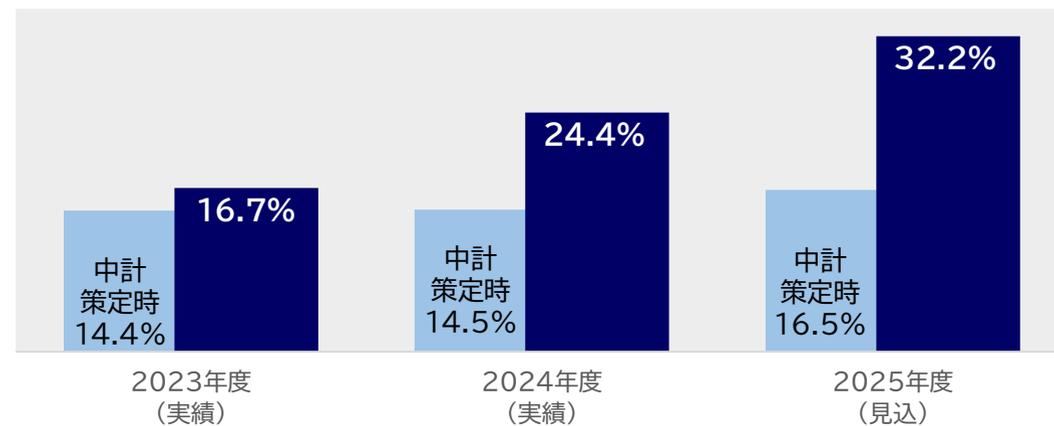
※ 単位:億円



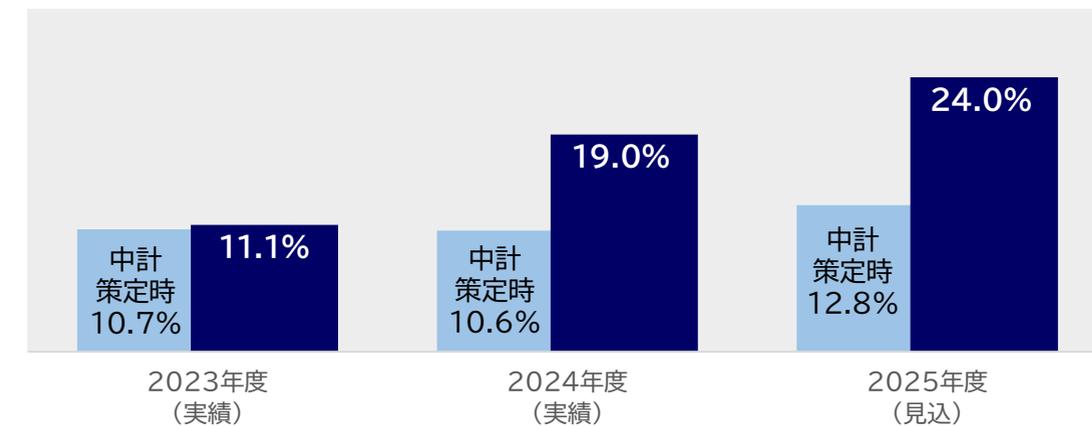
## 自己資本比率



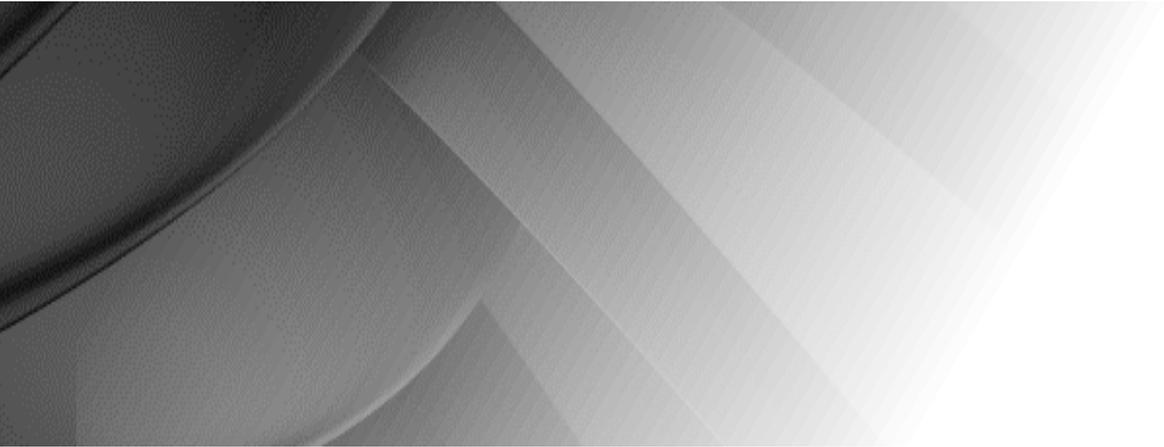
## ROE



## ROIC



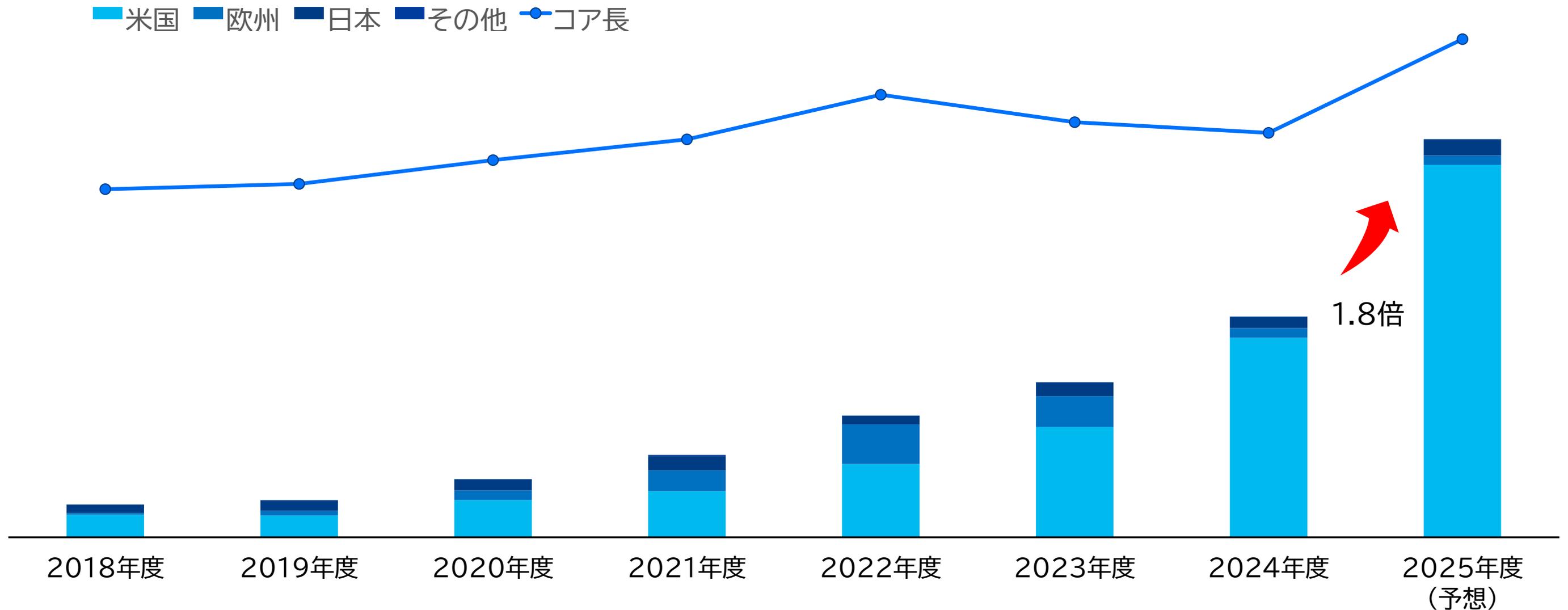
- 3つの核心的事業領域を中心に経営資源を投入。戦略的な事業運営と経営管理の高度化とその継続的改善によって、収益性は向上。情報ストレージ分野の大幅な伸長も追い風となり、2025中期経営計画で掲げた主要指標は概ね一年前倒しで達成。

- 
- 01. フジクラグループ概要
  - 02. 事業再生フェーズ/持続的成長フェーズ
  - 03. 2025中期経営計画
  - 04. 将来の成長に向けた取組み**

A man in a dark suit and white shirt is shown in a professional office environment. He is focused on working with fiber optic cables, holding them with both hands. The background is filled with whiteboards covered in charts, graphs, and documents, suggesting a technical or engineering workspace.

(株)フジクラ  
新人 ※中途  
長谷川 博己

- 2025年7月 データセンタ市場向けに開発した、世界初となる13,824心 SWR®/WTC®の販売開始。
- データセンタ向けの需要拡大を背景に、2025年度の売上は、前年対比1.8倍となる見込み。



- ✓ 当社は千葉県佐倉市の事業所内に、光ファイバ・SWR®の次世代工場を建設中(投資額450億円、2029年度稼働予定)。革新的な製造技術を導入し、生産性を現行比2~3倍へ高め、コスト競争力を強化する。
- ✓ 当社は米国・日本間の「戦略的投資に関する覚書」に基づき、2025年10月28日に米国商務省と枠組み合意書を締結し、AIインフラ強化分野の光ファイバケーブル(SWR®/WTC®)供給者に選定された。ホワイトハウスのファクトシートでは、同分野の光ケーブル需要が200億ドル(約3兆円)と示された。
- ✓ **SWR®/WTC®の事業機会は今後も広がる。**  
供給体制を強化するべく、さらに新たな工場建設を検討中。



世界トップクラスの光ケーブル、光コネクタ、光ファイバ融着接続機、光コンポーネントと、新たに通信エンジニアリングを組み合わせ、データセンタ向けトータルソリューションでビジネスを拡大。



## 核融合発電

- 燃料は海水から取り出すことができ、ほぼ無尽蔵に確保可能。
- 放射性廃棄物がほとんど発生しない。
- 発電過程で二酸化炭素を排出しないことから、カーボンニュートラル実現に向けて大きな期待が寄せられている。

### 磁場閉じ込め方式

磁場でプラズマを閉じ込める  
高温超電導線材を使用

### レーザー方式

エネルギー効率の高い  
ファイバレーザ技術を活用

当社は両方式でキーとなる技術を有している

## 政府主導の核融合プロジェクト※

国	プロジェクト名称	資金 (百万\$)
日本	内閣府 「フュージョンエネルギー・イノベーション戦略」	非公開
米国	米国エネルギー省(DOE) Fusion Energy Strategy	46
英国	UK Industrial Fusion Solutions Ltd. (英国政府が進めるSTEPの実施主体)	3,372
EU	EUROFusion (欧州の核融合研究の統括組織)	934
中国	中国核融合エネルギー会社 (国営企業25社によるコンソーシアム)	2,084 (資本金)

- 核融合分野では、各国政府主導で多くの実用化プロジェクトが進行中。
- 当社は日本国内のフュージョンエネルギー産業の発展に貢献すべく、フュージョンエネルギー産業協議会(J-Fusion)に理事として参画。
- また、プラズマからフュージョンエネルギーを取り出す世界初の取り組みであるFASTプロジェクトに、日本の高温超電導線材メーカーとして参加。
- 英国核融合プログラム実行機関(UKIFS)が進める核融合炉開発のSTEPプログラムでは、当社は高温超電導線材の供給者に選定された。

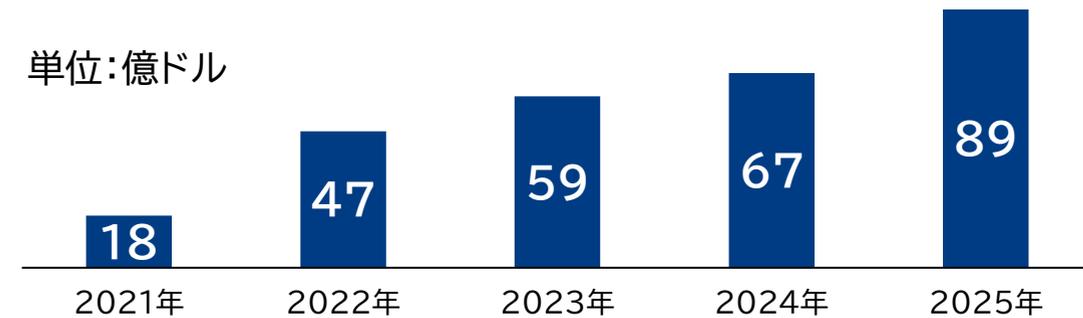
※: 当社調べ。資金については2025年7月平均の為替レートで計算。

## 核融合発電に取り組む有力スタートアップ

調達額 順位	国	社名	累計調達額 (百万\$)
1	米国	Commonwealth Fusion Systems	2,060
2	米国	TAE Technologies	1,200
3	米国	Helion	1,000
4	米国	Pacific Fusion	900
5	米国	SHINE Technologies	800
(中略)			
18	日本	京都フュージョニアリング	100
23	日本	EX-Fusion	38
24	米国	Blue Laser Fusion	38
26	日本	Helical Fusion	35

## 累計調達額の推移※

単位:億ドル

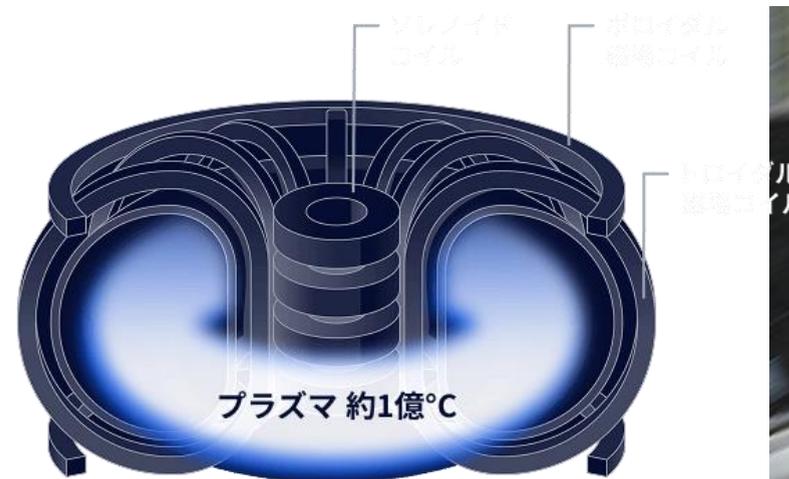


※: (出所) Fusion Industry Association, *The global fusion industry in 2025*, July 2025 をもとに、当社にて集計。

- 核融合分野においては、多くのスタートアップが大型資金調達を進めている。当社は、プラズマ/レーザー方式の双方において、有力なスタートアップとグローバルに協業を進めている。
- プラズマ方式では京都フュージョニアリング、Commonwealth Fusion Systems(CFS)へ出資。京都フュージョニアリングとは英国原子力公社(UKAEA)より受注した、「核融合炉用高温超電導マグネット領域の研究推進」を共同で推進。CFSへは小型実験炉に向けた高温超電導線材を供給している。
- レーザー方式では、EX-Fusionへ出資し、高出力シングルモード・ファイバレーザ分野で協業している。またBlue Laser Fusion社ともレーザー核融合の実現に向けた共同技術開発を推進。

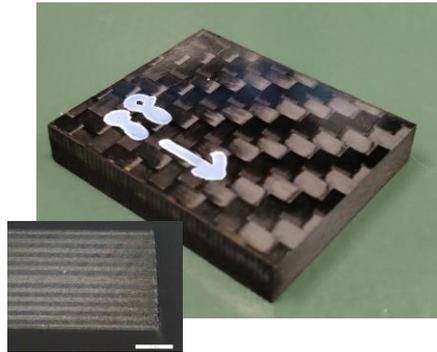
## 高温超電導線材：56億円のさらなる工場拡張投資を決断

- 将来的な核融合発電の商用化に向けた動きが加速する中、核融合関連投資が拡大し、超電導線材の需要が増加。
- 現在、当社は2027年度の生産能力を3～4倍へ拡大すべく約60億円の投資を実行中。さらに、56億円の工場拡張投資を決断し、2028年度の稼働開始を予定している。これにより、生産能力はさらに約2倍の拡大を見込む。
- なお、今回の追加投資は核融合市場だけでなく、将来的には超電導リニア用途など新市場の開拓も見据えたもの。



(提供:JR東海)

## 新素材加工への展開



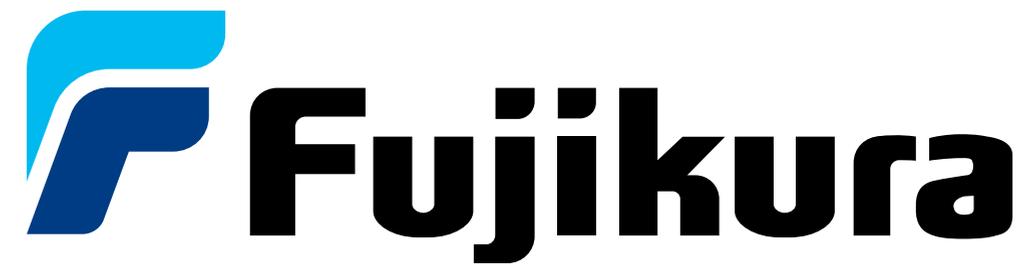
- 当社は、高出力シングルモードファイバレーザで培った技術を活かし、新素材加工分野への展開を進めている。
- 難削材であるCFRPに対し、ファイバレーザによる高品質で高速な加工の実現に向けて取り組んでいる。

## Blue Laser Fusion社との協業



- 2025年10月、レーザー核融合の実現を目指すBlue Laser Fusion社のCEOでありノーベル物理学賞受賞者の中村修二氏が当社を訪問。レーザー核融合に適したファイバレーザについて、共同で検討中。

- フジクラは、過去の経営危機を契機に、「ガバナンスの強化」と「選択と集中」を進め、経営基盤の強化を図ってまいりました。その後も、経営の継続的改善と、戦略的な事業運営を推進し、この4～5年で大きく変化を遂げてきました。
- 次期中期経営計画においては、安定した財務基盤の下、「攻めの選択と集中」に舵を切り、成長分野へのリソース投入を加速させることによって、更なる高収益企業を目指してまいります。
- 「進取の精神」と「技術のフジクラ」というDNAの下、社会の変化や技術革新を成長機会と捉え、未来に“つなぐ”テクノロジー™により、引き続き顧客の価値創造と社会に貢献してまいります。



**予測に関する注意事項:**

本資料(業績予想を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。実際の業績等は、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。

従いまして、本資料の利用は、他の方法により入手された情報と併せて、利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

- JPX日経インデックス400  
2024年度-2025年度



- FTSE Blossom Japan Index
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- FTSE4Good Index Series
- S&P/JPXカーボン・エフィシエント



FTSE Blossom  
Japan Index



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index



FTSE4Good



- MSCI 日本株 女性活躍指数(WIN)

2025 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

- SOMPOサステナビリティ・インデックス



Sompo Sustainability Index